

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

なし

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):阿部 智和 北海道大学大学院経済学研究院・准教授

共同研究者(氏名・所属機関・職名):坂川 裕司 北海道大学大学院経済学研究院・教授

研究課題名:人口分散市場下における CVS ビジネスモデルの確立と変革

研究期間:2016年4月1日 ~ 2018年3月31日

概要:(1,000字以内で記述)

本研究の目的は、コンビニエンス・ストア(以下、CVS)の一つであるセコマに着目し、独自性の高いビジネスモデルの確立と変革の過程を理論的に明らかにすることである。通常、CVSチェーンは、店舗を大都市圏に集中させ、多頻度少量配送による物流効率を高めるように、そのビジネスモデルを開発し続けてきた。しかし本研究の分析対象であるセコマは、人口分散性の高い地域である北海道を経営基盤として事業展開している。同社が事業を展開する北海道の経済成長率は低い。これらの特色は、同社のCVS事業におけるビジネスモデル開発に影響を及ぼし、全国展開する流通企業のビジネスモデルから逸脱させたと推測される。このことは小売業におけるビジネスモデルについて、経営基盤とする地域的条件が影響し、そのビジネスモデルに基づく事業展開能力を決定する可能性を示唆している。このような目的にもとづき本研究は展開された。

期間内に明らかにした点は以下の2点である。第1に、CVSチェーンの逸脱事例と想定されるセコマの事例を用いて、既存ビジネスモデルの連続的変化という、既存研究では十分な注目が寄せられてこなかった事象を明らかにした。具体的には、1)全国の都市部に積極出店していく競合他社に対して、同社は、出店地域を北海道および北関東に限定し、過疎地にも積極的に出店している、2)多くの競合他社は、取扱製品の企画・生産・物流から店舗運営に至る価値連鎖活動の大半を外部企業に委ねるオープン型であるのに対して、セコマは、それらの大部分を内部で手がけるクローズド型で事業を展開している、3)このシステム内の不均衡解消のため(とりわけ北海道内全域への物流網を起点として)、生産や企画、過疎地への出店などの独自のビジネスモデルを構築する行動が誘発された、という点を明らかにした(下記、成果①)。

第2に、同社の事業展開を3本の事例論文としてまとめた。現在継続中である同社に対する調査の内容も踏まえ、改訂後に公開する(下記、成果②)。

[成果] ①国内の学会誌に論文を投稿した(現在、査読中)、②北海道大学学術成果コレクション(<https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/index.jsp>)を利用し、事例論文を公開する(年内に1~2本、年度内に全て)。

*研究実績概要は「野村マネジメント・スクール研究助成実績報告書」および財団ホームページに掲載します